

令和6年度

ジャンプアップ研修
実施要項

徳島県教育委員会

目 次

I	ジャンプアップ研修の概要	1
II	所属校研修要項	2
III	教科等指導研修要項	3
IV	研修履歴の活用について	4
V	とくしま教員育成指標	
	・ 小学校教諭用	5
	・ 中学校・中等教育学校（前期課程）教諭用	6
	・ 高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭用	7
	・ 特別支援学校教諭用	8
	・ 養護教諭用	9
	・ 栄養教諭用	10
VI	提出書類	
	【様式 A】 ・ とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表（記入例）	11
	・ 小学校、中学校・中等教育学校（前期課程）教諭用	12
	・ 高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭用	13
	・ 特別支援学校教諭用	14
	・ 養護教諭用	15
	・ 栄養教諭用	16
	【様式 B】 ・ とくしま教員育成指標に基づく自己評価表（記入例）	17
	・ 小・中・中等（前期課程）、高・中等（後期課程）教諭用	18
	・ 特別支援学校教諭用	19
	・ 養護教諭・栄養教諭用	20
	【様式 C】 研究授業実施計画表	21
	【様式 D】 ジャンプアップ研修 研究授業実施報告書	22
	【様式 E】 欠席届	23
VII	G I G A スクール構想推進のための指導案例（全校種 全教科・領域共通）	24

I ジャンプアップ研修の概要

1 ねらい

採用後5年目の教諭等が、広い視野からこれまでの教職経験を振り返り、それぞれの使命を自覚するとともに、教諭等に求められる資質及びICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上と人的ネットワークの構築を図る。

徳島教育大綱及び徳島教育振興計画（第4期）との関連について
重点項目Ⅰ－推進項目1－①GIGAスクール構想の更なる展開

2 主 催

徳島県教育委員会

3 受講対象者

採用後5年目の小学校教諭、中学校教諭、中等教育学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭、栄養教諭に対して実施する。

4 研修内容等

(1) eラーニング研修（令和6年4月26日～5月31日）

① 受講案内文書にあるURLにアクセスし、eラーニングを受講後、次の書類を作成し管理職員の確認後にジャンプアップ研修担当宛にメールに添付して提出する。

ア 提出物

- ・【様式A】とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表
- ・【様式B】とくしま教員育成指標に基づく自己評価表
- ・【様式C】研究授業実施計画表（NITSオンライン講座を視聴して取り組む）

イ 提出期限

令和6年5月31日（金）

ウ 提出先

ジャンプアップ研修実施要項 P.2 参照

(2) 所属校研修（eラーニング研修終了後～10月末）

① 「とくしま教員育成指標」に基づく自己評価を踏まえ、自己の課題を把握し、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力向上に関するものを研究課題として設定する。校内での徳島型メンター制度を活用し、相互に授業を参観し、相談をしたり意見交換をしたりしながら研究を進める。

② 研究授業と研究協議を10月末までに1回以上実施する。その際、管理職員の参観のもと実施し、授業後は指導助言を受ける。また、研究協議参加者からの意見・助言も踏まえて次の書類を作成し、管理職員の確認後にジャンプアップ研修担当宛にメールに添付して提出する。

ア 提出物

- ・【様式D】研究授業実施報告書
- ・学習指導案（A4判・PDF）

イ 提出期限

令和6年10月31日（木）

ウ 提出先

ジャンプアップ研修実施要項 P.2 参照

(3) 教科等指導研修

① 次の書類を完成させて、管理職員の確認後に教科等指導研修に持参すること。

※「eラーニング研修」「校内での研究授業・研究協議」等で学んだことを反映させた内容にすること。

- ・【様式A】とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表
- ・【様式B】とくしま教員育成指標に基づく自己評価表
- ・学習指導案、授業で使った資料や教材等（教科別人数＋1部）
- ・研修履歴（「Ⅳ 研修履歴の活用について」参照）

② 徳島県立総合教育センターで開催する次の校種別部会に参加すること。

令和6年11月26日（火）小学校部会

令和6年11月27日（水）中学校・中等教育学校（前期課程）部会、養護教諭部会、栄養教諭部会

令和6年11月28日（木）高等学校・中等教育学校（後期課程）部会、特別支援学校部会

Ⅱ 所属校研修要項

1 目 的

学習指導要領の趣旨を実現するために、各教科等における資質・能力を確実に育成するうえで、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上を図る。

関連する「とくしま教員育成指標」の資質・能力の項目

- ・素養「B 識見・学び続ける力」
- ・授業力・学習指導「C 授業実践力」「D 授業省察力・改善力」
- ・ICTの利活用「A ICTを学習指導に利活用する力」
- ・専門的職務実践力・学習指導「B 保健教育」「F 教科等における教育指導」

2 期 日

e ラーニング研修終了後～令和6年10月末まで

3 内 容

① e ラーニング研修終了後の課題について

「『とくしま教員育成指標』に基づく自己評価【様式A】、【様式B】」を踏まえ、自己の課題を把握する。e ラーニング研修で視聴したNITSオンライン講座の学びを取り入れて、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力向上に関するものを研究課題として設定し、「【様式C】研究授業実施計画表」を作成する。校内での徳島型メンター制度を活用し、互いに授業を参観して協議を重ねながら、教科等における授業改善の方法を探究し、課題解決に向けて研究を進める。

ア 提出物 **【様式A】、【様式B】、【様式C】** ※管理職員の確認後に提出すること。

イ 提出方法 ジャンプアップ研修担当宛にメールで送信する。（下記参照）

ウ 提出期限 **令和6年5月31日（金）必着**

② 研究授業について

小学校教諭は、これまで深く研究する機会がなかった教科等や苦手な教科等に取り組むよい機会と捉え、「各教科（道徳科、外国語科を含む）、外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間」の中から選択すること。また、特別支援学級担任は、各教科等を合わせた指導、自立活動も選択できる。人権学習に取り組む場合は、教科名等を先に表記し、これが人権教育として展開されるものであることを「〇〇科（人権）」の形で併記する形式で報告すること。

中学校・中等教育学校（前期課程）及び高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭は、担当教科（科目）で研究授業を実施する。なお、中学校の特別支援学級担任は、各教科等を合わせた指導、自立活動も選択できる。

特別支援学校教諭は、「各教科（科目）（道徳科、外国語科も含む）、外国語活動、各教科等を合わせた指導、総合的な学習（探究）の時間、特別活動、自立活動」の中から選択すること。

いずれの校種においても、ティーム・ティーチングの授業の場合は、T1として実施すること。

養護教諭は、保健学習（指導）でT1として実施すること。

栄養教諭は、教科等における「食に関する指導」をT2として実施すること。

学習指導案の形式は、徳島県立総合教育センターWebサイト→教職員支援・学校支援→教科等の指導に役立つ情報→各校種・各教科のページや、ジャンプアップ研修実施要項24ページ「Ⅶ GIGAスクール構想推進のための指導案例」、文部科学省のWebサイトを参考に作成すること。

ア 提出物 **【様式D】、学習指導案（A4版・PDF）** ※管理職員の確認後に提出すること。

イ 提出方法 ジャンプアップ研修担当宛にメールに添付して提出する。（下記参照）

ウ 提出期限 **令和6年10月31日（木）**

【提出先メールアドレス】

jumpup@mt.tokushima-ec.ed.jp

※県立学校は、学習系パソコン（外部メール）から送付してください。

- ・メールの件名「受講者番号・氏名・学校名（・教科等）」
- ・ファイル名「受講者番号・氏名・様式〇」、「受講者番号・氏名・学習指導案」
- ・提出物は、それぞれPDFファイルにしてメールに添付する。
- ・メール作成時に、「開封確認メールを要求」と設定する等により、送信先がメールを受信できたことを確認する。

Ⅲ 教科等指導研修要項

1 目 的

教科等における授業改善の方法を探究し、ＩＣＴ（１人１台端末等）を活用した実践的指導力の向上を図る。また、人権教育及び情報モラル教育等の喫緊の教育課題等について実践事例や演習を通して意義や重要性についての正しい知識を身に付け、とくしま教員育成指標を踏まえた資質・能力の向上を図る。

関連する「とくしま教員育成指標」の資質・能力の項目

- ・ 素養「Ｂ 識見・学び続ける力」
- ・ 授業力・学習指導「Ｃ 授業実践力」「Ｄ 授業省察力・改善力」
- ・ ＩＣＴの利活用「Ａ ＩＣＴを学習指導に利活用する力」
- ・ 専門的職務実践力・学習指導「Ｂ 保健教育」「Ｆ 教科等における教育指導」

2 期日及び会場 徳島県立総合教育センター 各研修室

令和6年11月26日（火）小学校部会

令和6年11月27日（水）中学校・中等教育学校（前期課程）部会、養護教諭部会、栄養教諭部会

令和6年11月28日（木）高等学校・中等教育学校（後期課程）部会、特別支援学校部会

3 日程と内容

9：15～ 9：45	受付
9：45～10：00	開会、諸連絡
10：00～12：00	協議「ＩＣＴ（１人１台端末等）を活用した実践的指導力の向上」 講師 学校経営支援課、教職員研修課、特別支援・相談課、 教育ＤＸ推進課、義務教育課、高校教育課、人権教育課、 体育健康安全課 各担当者
12：00～13：00	昼食・移動
13：00～13：45	講義・演習「いじめの“未然防止”及び“早期発見・対応に向けて”」 「人権教育について」 講師 いじめ・不登校対策課、人権教育課 担当者
13：45～14：30	講義・演習「情報モラル教育について」 講師 教育ＤＸ推進課 担当者
14：40～15：50	講義・演習「自分で切り拓くキャリアデザイン」 講師 学校経営支援課、教職員研修課、特別支援・相談課、 体育健康安全課 各担当者
15：50～16：00	諸連絡・アンケートについて、閉会

4 準備物

- ・ 筆記用具等（署名できるボールペン等を準備してください。）
- ・ 「『とくしま教員育成指標』に基づく自己評価【様式Ａ】、【様式Ｂ】」
※1度提出したものを完成させて、必ず管理職員の確認を受けること。
- ・ 研修履歴（「Ⅳ 研修履歴の活用について」を参照しプリントアウトする）
- ・ 学習指導案と授業で使った資料や教材等（教科別人数＋1部）
※教科別人数は後日文書にて通知する。

5 備 考

- (1) やむを得ず欠席する場合は、あらかじめ管理職員（緊急の場合は本人）が担当者まで電話連絡し、管理職員は、速やかに欠席届をメールに添付して提出してください。送付は、学校代表メールアドレスもしくは管理職員のメールアドレスから行うようにしてください。欠席届の様式は、総合教育センターのＷｅｂサイトからダウンロードできます。送付先は、徳島県立総合教育センター教職員研修課 kyoushokuinkenshuu@g.tokushima-ec.ed.jpです。
- (2) 服装は、研修にふさわしい服装で参加してください。5月～10月に実施する研修についてはエコスタイル（夏はノー上着・ノーネクタイ等）で結構です。
- (3) 研修当日、午前7時の時点で研修会場を含む地域（総合教育センターの場合は「板野町」地域）に、特別警報又は暴風警報、大雪警報が発表中の場合は、その日の研修講座等は中止します。後日、振り替えて実施することはありません。
- (4) 昼食が必要な方は、当日に弁当の注文ができます。

【連絡先】教職員研修課 ジャンプアップ研修担当 088-672-5100

IV 研修履歴の活用について

御自身のキャリアデザインのために研修履歴を次の手順で確認しましょう。

- 1 徳島県立総合教育センターのホームページを表示し、画面上部のタブの「教職員研修講座」をクリックします。表示された画面から「講座申込」をクリックします。



徳島県立総合教育センター
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字東谷1-7
電話：088-672-5000
ファクシミリ：088-672-5005
E-mail webmaster@mt.tokushima-ec.ed.jp



[ホーム](#) [生涯学習](#) [教職員研修講座](#) [教職員支援・学校支援](#) [教育相談・特別支援](#) [GIGAスクール推進](#)

教職員研修講座
年間計画
講座要項
研修資料
e-ラーニング
講座申込
提出書類のダウンロード

このページは、教職員向け研修・講座についてのページです。

[年間計画](#) [講座要項](#) [研修資料](#) [e-ラーニング](#)
[講座申込](#) [提出書類のダウンロード](#) [小英サポートデスク](#) [教職員支援コンテンツ](#)

- 2 次に表示された「研修講座申込みシステム」の画面の右上の「ログイン」をクリックすると、また画面が変わるので、各自の職員番号とパスワードを入力してログインします。なお、初期パスワードは、職員番号の先頭に英数小文字のpを加えたものです。最初のログイン時に変更するようになっています。（変更後は、忘れないでください）

ユーザーIDとパスワードを入力してください

ユーザーID:

パスワード:

職員番号（半角数字7桁）

p（半角小文字）＋職員番号（半角数字7桁）
（例）p1234567

- 3 ログインできると、画面左側のメニューから「研修履歴表示」をクリックすると研修履歴の表示ができます。必要に応じて印刷して御活用ください。

教職員メニュー
パスワード変更
共通メニュー
お知らせ
申込み状況公開
研修講座実施要項
履歴
研修履歴表示

ようこそ 徳島 太郎 さん / [ログアウト](#)

研修履歴表示

15件のデータがありました。 ☐ 基本研修の詳細表示 20件 ▼

学校	氏名	研修種別	研修名・研修講座名	年度	受講日数(回数)
"	"	"	学校安全教室並びに学校安全教育指導者研修会	H23	1.0
"	"	"	徳島県中学校教育課程研究集会（総則）	H24	1.0
"	"	"	学校安全教室及び学校安全教育指導者講習会	H27	1.0
"	"	特別研修	情報モラル教育研修会	H27	1.0

※注意※

この方法による研修履歴の確認は、令和6年6月末で終了します。それ以降の研修履歴の確認は、「Plant（全国教員研修プラットフォーム）」で行ってください。（詳細については、徳島県立総合教育センターホームページでお知らせします。）

V とくしま教員育成指標

令和5年度改訂

小学校教諭用							
キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞
資質・能力		養成期	基盤形成期		伸長・充実期		熟達期
A 使命感・倫理観	B 働き続ける力	C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力	A カリキュラム・マネジメント力	B 授業精進力
C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力	A カリキュラム・マネジメント力	B 授業精進力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力
D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力	A カリキュラム・マネジメント力	B 授業精進力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力
E 連携・協働力	F 危機管理能力	A カリキュラム・マネジメント力	B 授業精進力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力
F 危機管理能力	A カリキュラム・マネジメント力	B 授業精進力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	C 課題解決力
A カリキュラム・マネジメント力	B 授業精進力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力
B 授業精進力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力
C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践
D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力
A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力
B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	A ICTを学習指導に活用する力
C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力
D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	C 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた指導・支援力

– 6 –

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期
資質・能力		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期
A 使命感・倫理観	B 職業見 学び続ける力	C 社会性・ コミュニケーション力	D 学校組織 マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理力
A カリキュラム・ マネジメント力	B 授業構想力	C 授業実践力	D 授業省察力・ 改善力	E 児童生徒理解・ 指導力	F 集団づくり力
A 個に応じた 指導・支援力	B チームによる実践	E 多様性に基づく 学習支援力	F 多様性に基づく 生活支援力	A ICTを学習指導に 活用する力	B ICTを効率的な 業務の遂行に 活用する力

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞		
資質・能力		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期			
A 使命感・倫理観	B 職業見 学 び 続 け る 力	C 社 会 性・ コミュニケーション力	D 学 校 組 織 マ ネ ジ メ ン ト 力	E 連 携 ・ 協 働 力	F 危 機 管 理 力	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。			
						○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。			
						○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。			
						○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。			
						○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。			
						○ 学校のコミュニケーションに関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。			
						○ 学校教育目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。			
						○ 組織全体を俯瞰し、業務の効率化を推進している。			
						○ 人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。			
						○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。			
素養	ICTの活用	特別支援の充実	A カリキュラム・マネジメント力	B 授業構想力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	○ 学校教育目標を踏まえ、幼児児童生徒の実態に、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。		
							○ アセスメントや客観的な根拠に基づいた幼児児童生徒の指導計画や年間指導計画に沿って、ICT等の効果的な活用や評価方法をとり入れた日々の保育・授業(以下、授業と表記。)を構想している。		
							○ 各授業において目標設定や指導内容・方法を考え、個々の幼児児童生徒の実態に即した教材・教具の活用による適切な指導・支援をしている。		
							○ 授業の目標に沿った具体的な学習成果の記録や自己評価を行い、授業改善を行っている。		
							○ 幼児児童生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。		
							○ 担任と幼児児童生徒に関わる教員間で指導の効果を確認しながら授業改善を行うとともに、幼児児童生徒の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援を行っている。		
							○ 幼児児童生徒の発達や個性等により多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるような意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。		
							○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。		
							○ 様々な障がいのある幼児児童生徒の授業について、学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。		
							○ 幼児児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするために、全ての教職員で幼児児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。		
							○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。		
							○ 学校が直面する様々な課題を把握し、その解決のために、個別的な支援や、ポジティブ行動支援の実践等、組織的できめ細やかな指導・支援を学校全体で取り組むように推進している。		
							○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。		
							○ 個別の教育支援計画や個別の指導計画にキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点からの目標を設定し、一人一人の社会的・職業的自立の目標達成に向け、日々の指導・支援をしている。		
							○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、就労支援機関、企業、福祉施設、関係機関等との連携を図りながら、卒業後の社会的・職業的自立やQOLの向上を目指してあらゆる教育活動に取り組んでいる。		
							○ 各発達心理検査、一般職業適性検査結果の活用や、課題分析等の客観的な根拠に基づいた実態把握に取り組み、指導目標を明確にしている。		
○ 外部専門家のコンサルテーションを受けるなどして、問題行動をはじめとする個別の課題への対応や解決について、チームで積極的に取り組んでいる。									
○ 地域の教育資源についての情報を把握し、「早期から始めるキャリア教育」「エシカル消費教育」「教福連携」「SDGs」等の取組において活用を図っている。									
○ 近隣の地域や企業等と連携を進め、地域と一体化した「キャリア教育」に取り組んでいる。									
○ 多様性を認め合う「ダイバーシティ」とくしまの実現を目指した地域と一体化した取組を推進している。									
A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	E 目標の明確化・実態把握力	F チームによる組織力	○ 幼児児童生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。			
						○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。			
						○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。			
						○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしたり、幼児児童生徒の成長や発達に応じて、きめ細やかに機器の調整を行ったりしている。			
						○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。			
						○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。			

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期
資質・能力		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	熟達期
A 使命感・倫理観	B 学び続ける力	C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力
A 保健管理	B 保健教育	C 健康相談	D 保健室経営	E 保健組織活動	F 児童生徒理解・指導力
A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	E ICTを学習指導に活用する力	F ICTを効率的な業務の遂行に活用する力

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期
資質・能力		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期
A 使命感・倫理観	B 職業見続ける力	C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力
G 個別指導力	H 学校給食の管理	I 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	J 食育コーディネーターとしての連携・調整	A 児童生徒理解力	B 集団づくり力
C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力
E ICTを学習指導に活用する力	F ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力

Ⅵ 提出書類

【様式A】 とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表(記入例)

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

小 10

【自己評価方法】

- ①とくしま教員育成指標を参考に、各項目ごとに自分の現状に合うように整理して文章で入力する。
ジャンプアップ研修実施要項(p5～p10)にある、とくしま教員育成指標を参考にしてください。
- ②自分に当てはまるものを次のように数値化する。
あてはまる…4 だいたいあてはまる…3 少しあてはまる…2 あてはまらない…1
- ③「素養」「担任力・学習指導」「ICTの利活用」などの大きなまとまりごとに、平均を出して、チャート【様式B】に入力する。

受講者番号を
記入する。

学 校 名		〇〇市△△小学校		職・氏名		教諭・□□ □□	
担当教科		音楽		校務分掌		安全教育	
資質・能力				自己評価のチェック			
				実施日(5/10)		実施日()	
項目		具体的内容		評価	平均	評価	平均
素 養	A	使命感・倫理観	使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。		5月31日(金)までに、色の付いているところに入力して提出する。		教科等指導研修実施日までに完成させ、研修日に持参する。
	B	識見・学び続ける力	知見を広げ、主体的に学習に取り組んでいる。				
	C	社会性・コミュニケーション力					
	D	学校組織マネジメント力	とくしま教員育成指標に示された資質・能力を読み、大切な表現を整理して入力する。				
	E	連携・協働力					
	F	危機管理能力					
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力					
	B	授業構想力					
	C	授業実践力					
	D	授業省察力・改善力					
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力					
	B	集団づくり力					
	C	課題解決力					
	D	未来ビジョン育成力					
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力					
	B	チームによる実践					
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力					
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力					
ICTの利活用	A	ICTを学習指導に活用する力					
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力					

【自己評価の活用について】

- ①自己評価から見えてきた自分のよさや課題を整理する。
- ②自己分析を踏まえて、本年度の目標を設定する。

【様式A】小学校、中学校・中等教育学校（前期課程）教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名			職・氏名				
担当教科			校務分掌				
資質・能力			自己評価のチェック				
			実施日()		実施日()		
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均	
素 養	A	使命感・倫理観					
	B	識見・学び続ける力					
	C	社会性・コミュニケーション力					
	D	学校組織マネジメント力					
	E	連携・協働力					
	F	危機管理能力					
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力					
	B	授業構想力					
	C	授業実践力					
	D	授業省察力・改善力					
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力					
	B	集団づくり力					
	C	課題解決力					
	D	未来ビジョン育成力					
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力					
	B	チームによる実践					
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力					
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力					
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力					
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力					

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照 提出期限 令和6年5月31日(金)

【様式A】高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名			職・氏名			
担当教科			校務分掌			
資質・能力			自己評価のチェック			
			実施日()		実施日()	
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均
素 養	A	使命感・倫理観				
	B	識見・学び続ける力				
	C	社会性・コミュニケーション力				
	D	学校組織マネジメント力				
	E	連携・協働力				
	F	危機管理能力				
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力				
	B	授業構想力				
	C	授業実践力				
	D	授業省察力・改善力				
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力				
	B	集団づくり力				
	C	課題解決力				
	D	未来ビジョン育成力				
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力				
	B	チームによる実践				
	E	多様性に基づく学習支援力				
	F	多様性に基づく生活支援力				
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力				
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力				

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照 提出期限 令和6年5月31日(金)

【様式A】特別支援学校教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名				職・氏名			
担当教科				校務分掌			
資質・能力				自己評価のチェック			
				実施日()		実施日()	
項目		具体的内容		評価	平均	評価	平均
素 養	A	使命感・倫理観					
	B	識見・学び続ける力					
	C	社会性・コミュニケーション力					
	D	学校組織マネジメント力					
	E	連携・協働力					
	F	危機管理能力					
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力					
	B	授業構想力					
	C	授業実践力					
	D	授業省察力・改善力					
担任力・生徒指導	A	幼児児童生徒理解・指導力					
	B	集団づくり力					
	C	課題解決力					
	D	未来ビジョン育成力					
	E	目標の明確化・実態把握力					
	F	チームによる組織力					
特別支援の充実	G	センター的機能の推進力					
	H	地域貢献力					
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力					
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力					

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照 提出期限 令和6年5月31日(金)

【様式A】養護教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名			職・氏名			
担当教科			校務分掌			
資質・能力			自己評価のチェック			
			実施日()		実施日()	
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均
素養	A	使命感・倫理観				
	B	識見・学び続ける力				
	C	社会性・コミュニケーション力				
	D	学校組織マネジメント力				
	E	連携・協働力				
	F	危機管理能力				
専門的職務実践力・学習指導	A	保健管理				
	B	保健教育				
	C	健康相談				
	D	保健室経営				
	E	保健組織活動				
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力				
	B	集団づくり力				
	C	課題解決力				
	D	未来ビジョン育成力				
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力				
	B	チームによる実践				
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力				
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力				
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力				
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力				

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照

提出期限 令和6年5月31日(金)

【様式A】栄養教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名			職・氏名			
担当教科			校務分掌			
資質・能力			自己評価のチェック			
			実施日()		実施日()	
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均
素 養	A	使命感・倫理観				
	B	識見・学び続ける力				
	C	社会性・コミュニケーション力				
	D	学校組織マネジメント力				
	E	連携・協働力				
	F	危機管理能力				
専門的職務実践力・学習指導	F	教科等における教育指導				
	G	個別的な相談指導				
	H	学校給食の管理				
	I	食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開				
	J	食育コーディネーターとしての連携・調整				
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力				
	B	集団づくり力				
	C	課題解決力				
	D	未来ビジョン育成力				
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力				
	B	チームによる実践				
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力				
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力				
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力				
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力				

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照

提出期限 令和6年5月31日(金)

【様式B】

とくしま教員育成指標に基づく自己評価表(記入例)

高 10

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名	〇〇高等学校	職・氏名	教諭・□□ □□
担当教科等	保健体育	校務分掌	生徒指導

素養

学 授
習 業
指 導
・

生 担
徒 任
指 導
・

特別な配慮・支援

ICTの利活用

5月 ————

11月 - - - -

自己分析

実施日(5/13)

〇よさ

第1ステージ 基盤形成期における達成度を記入してみましょう。
成長の度合いを客観的にみてみましょう。

〇課題

【自己分析に基づく本年度の目標】※どんなことに取り組むか、具体的に書きましょう。

5月31日(金)までに色の付いているところに入力して提出する。

【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どんな資質・能力が高まったか等について書きましょう。

教科等指導研修実施日までに、必ず管理職員の確認を受けて、
完成させたものを研修日に持参する。

記入漏れが多い箇所です。確認してください。

〇〇高等 学校長 徳 島 太 郎

とくしま教員育成指標に基づく自己評価表

--

学 校 名		職・氏名	
担当教科等		校務分掌	
		自己分析 実施日()	
		○よさ ○課題	
【自己分析に基づく本年度の目標】※どんなことに取り組むか、具体的に書きましょう。			
【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どんな資質・能力が高まったか等について書きましょう。			
学校長			

【提出について】
ジャンプアップ研修 実施要項 P.2を参照 提出期限 令和6年5月31日(金)

【様式B】 特別支援学校教諭用
とくしま教員育成指標に基づく自己評価表
【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名		職・氏名	
担当教科等		校務分掌	
素養 学 授 習 業 指 導 ・ 生 担 徒 任 指 導 ・ 特別支援の充実 ICTの利活用 5月 ———— 11月 - - - -		自己分析 実施日()	
		○よさ	
		○課題	
【自己分析に基づく本年度の目標】※どんなことに取り組むか、具体的に書きましょう。			
【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どんな資質・能力が高まったか等について書きましょう。			
学校長			

【提出について】
ジャンプアップ研修 実施要項 P.2を参照 提出期限 令和6年5月31日(金)

【様式B】養護教諭・栄養教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名		職・氏名	
担当教科等		校務分掌	
素養 専門的職務実践力・ 学習指導 生徒担任指導・ 特別な配慮・支援 ICTの利活用 5月 ———— 11月 - - - -		自己分析 実施日()	
		○よさ	
		○課題	
【自己分析に基づく本年度の目標】※どんなことに取り組むか、具体的に書きましょう。			
【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どんな資質・能力が高まったか等について書きましょう。			
学校長			

【提出について】
ジャンプアップ研修 実施要項 P.2を参照 提出期限 令和6年5月31日(金)

【様式C】 研究授業実施計画表

ジャンプアップ研修では、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力のさらなる向上を目指しています。学習指導要領の趣旨を実現するために、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、研究授業を行ってください。

《研究授業実施計画表作成の留意点》

- ☐ 研究課題の設定は、教科・単元・題材の特性等や児童生徒の実態、自身の現状（自己評価の結果）等を踏まえて行うこと。
- ☐ 課題解決のための方策として、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした上で、育成するための工夫・改善、自身の実践的指導力の向上のための工夫・改善について考えること。
- ☐ eラーニング研修で視聴したNITSオンライン講座から学んだことや、校内の徳島型メンター制度を活用して得た知見等を踏まえて授業づくりに取り組むこと。

校 種 等	☐ 小 特 ☐ 中・中等（前期課程） ☐ 高・中等（後期） ☐ 特 ☐ 養 ☐ 栄 （クリックして ☒ してください）		
学 校 名			
受 講 者 番 号		氏 名	
NITSオンライン講座視聴タイトル			
講座を視聴して学んだこと・今後に生かしたいこと			
授 業 日	令和 6 年 月 日（ ）		
学 年 ・ 教 科 等	（ ）年 ・ （ ）		
単 元 名 等			
研 究 課 題			
課題設定の理由			
課題解決のための方策			

※特別支援学級で授業を行う場合、「学年・教科等」に、「特別支援学級（障がい種）〇年・（教科）」と記入してください。

※eラーニング終了後に、【様式A】、【様式B】、【様式C】を、総合教育センター教職員研修課ジャンプアップ研修担当宛にメールで提出すること。

【送付先メールアドレス】

jumpup@mt.tokushima-ec.ed.jp 提出期限 令和6年5月31日（金）

※県立学校に関しては、学習系パソコン（外部メール）から送付してください。

【様式D】 ジャンプアップ研修 研究授業実施報告書

校 種 等	☐ 小 ☐ 中・中等(前期課程) ☐ 高・中等(後期課程) ☐ 特 ☐ 養 ☐ 栄 (クリックして ☒ してください)	受講者番号 ()	学校名 氏 名
教科等名	学年・組		
実 施 日	月 日 校時	研究協議 参加者	
研究授業を実施して(研究協議参加者からの意見・助言を踏まえて記述すること)			
研究課題「 」			
今後の課題とその改善方策について			
学校長			

※研究授業終了後に、学習指導案とともに、総合教育センター教職員研修課ジャンプアップ研修担当宛にメールで提出すること。

【送付先メールアドレス】

jumpup@mt.tokushima-ec.ed.jp

提出期限 令和6年10月31日(木)

※県立学校に関しては、学習系パソコン(外部メール)から送付してください。

令和6年 月 日

徳島県立総合教育センター所長 殿

学 校 名
校長氏名

欠 席 届

次のとおり、本校職員が令和6年度ジャンプアップ研修を欠席しますのでお届けします。

1 職 氏 名

2 研修講座名

3 欠席する期間	令和6年	11月	日	曜日から
	令和6年	11月	日	曜日まで
				() 日間

4 欠席の理由

- 23 –

VII GIGAスクール構想推進のための指導案例（全校種 全教科・領域共通）

（例：中学校英語科 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 PROGRAM 6）

6 本 時（第7時）

（1）目 標

自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）について紹介する文を書くことができる。

（2）展 開

※注意※
この例は、本時の部分のみを
抜き出したものです。

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価 方法
5分	1 挨拶・ウォームアップをする。	・簡単なQ&AやSmall Talkにより、英語の授業の雰囲気づくりに努める。		
10分	2 セクション1～3の内容について復習する。	・これまでの授業で配付し、生徒が各自タブレットに保存している地図や写真、表などを見ながら音声を聞かせ、セクション1～3の概要を再確認させる。 ・電子黒板で画像を提示しながらQ&Aを行い、本文の正確な内容を確認させる。		
5分	3 ボイヤンさんの取組についての感想を発表する。	・ボイヤンさんの取組について感じたことを、タブレットのノートに書いて共有させる。		
20分	4 自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）を紹介する英文をタブレットのワークシートに書く。	・前時に作成したマッピングを用いて、自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）を紹介する英文を、入力スキルの差に配慮しながらタブレットのワークシートに書かせる。 <評価のポイント> ・関係代名詞などを用いてまとまりのある英文が書けているか。 ・聞き手・読み手を意識した自然なつながりの文章になっているか。	知・思・態 （各教科・領域 の記入例で）	作品
10分	5 本時のまとめをし、次時の予告と家庭学習の確認、挨拶をする。	・作品をいくつか紹介し、優れた表現を共有するとともに、次時の予定（紹介文の発表）とその準備（家庭学習）をしてることを伝える。		

情報活用能力の評価
規準は記入しない。

1人1台端末等をメイン
で活用した場面を太字
で記入し、枠で囲む。

（3）評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）について、関係代名詞を含め既習表現を用いたり、主体的に辞書等で調べたりしながら、まとまりのある英文で正確に書くことができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	関係代名詞を使って書かれた、ものや人を紹介する文を例示したり、単語や表現したいことを辞書やタブレット端末等を使って調べる支援をしたりする。